

電話の向こうに君の笑顔が見える……

☎山形いのちの電話

広報50号

2014.11.15

yamagata



元山形大学教養部生物学教室教授
山形いのちの電話初代事務局長
故 石塚 和雄 氏



ひとりで悩まず
かけてみませんか？

ちよつと勇気をだして…

13:00~22:00

社会福祉法人 山形いのちの電話
tel.023-645-4343



いのちを見つめて20年

山形いのちの電話 理事長 古澤茂堂

本年度、「山形いのちの電話」は開局20周年を迎えることができました。これも偏に、皆様方のご支援、ご協力の賜物と心より御礼申し上げます。

そもそも、「いのちの電話」は、自殺予防を目的とし、悩みを持つ人達に耳を傾け、現状から抜け出す援助を行うボランティアの電話相談です。相談する人が利用しやすい様に、相談者も受ける側も匿名なのが特徴で、また予約なしに利用できるため、いち早く悩みを持つ人達の心に寄り添うことができます。人間には生まれながらにして生きようとする本能があり、その生きたいという力を大きくしてあげること、それが「いのちの電話」の仕事といえます。

さて、「山形いのちの電話」の歴史を遡ると、平成元年に山形大学教授の石塚和雄さん（初代事務局長）が中心となり、山形にも「いのちの電

話」を、との思いを強くして準備に当たってきました。運営費など財政面での課題が浮上しましたが、本間利雄さん（理事）が会の趣旨に共鳴され、経済界に賛同を募って寄付を集め、県芸術文化会議会長の田中哲さんが初代理事長に就任し、山形市の施設に事務局と電話を設置してスタートしました。また5年前には、吉村知事と相談員との意見交流会が開催されたことが発端となり、県の支援を受けて庄内分室が鶴岡市に開設され、庄内の相談員が山形市のセンターまで来る必要がなくなり、相談員の負担が軽減されました。

先行き不透明な時代、「いのちの電話」に期待される役割は以前にも増して大きくなってきています。私達は、今日まで支えて下さった皆様の善意に感謝しながら、これからも「いのちを見つめて」活動を続けて参りたいと思います。今後共御支援の程お願い申し上げます。



山形いのちの電話開局 20周年にあたり

一般社団法人日本いのちの電話連盟
理事長 日下 忠文

この度、山形いのちの電話が相談員、マネジメントボランティア、その他、関係者の皆様、地域の皆様の大変なご努力、ご支援の下、20周年を迎えられましたことに心よりお喜びと感謝と御礼を申し上げます。連盟も任意団体から公益社団法人を目指す途上がありますが、それには全国レベルでの研修の質の充実も求められております。連盟の研修員会で検討しておりますが、2点を私見として述べたいと思います。

2004年には米国精神医学会による治療ガイドラインに自殺関連項目が初めて掲載され、これは1966年から2002年までの34,851件の専門論文をエビデンスに基づいて整理したものであり、これに

より、科学的に理解できる自殺関連の知識が世界的に整理されました。

他方、1967年に聖クリストファー病院で医療から見放された末期がんの患者さんの疼痛緩和を図ったところ、人間存在の根源に関わる苦悩、苦痛、いわば人間として答えの出ない苦しみにある患者さんを支えざるを得ない状況に直面し、この苦悩、痛みを「スピリチュアリティ」と称し、此処から病気を治すだけの科学的医療から、苦しみを抱えている患者さんを支える「全人医療」が始まり、現在では専門的、多職种的、総合的な、医療と福祉までが連携した「オーケストラ」のような支えるシステムとして支える側も参加しているのが一般的です。

私たち、「いのちの電話」もこの自殺防止・予防活動のオーケストラの一員としての自覚のもとに共同支援体制に参画する時代ではないでしょうか？



祝 辞

山形県知事 吉村 美栄子

山形いのちの電話開局20周年、誠にありがとうございます。

山形いのちの電話におかれましては、平成6年の設立以来、本県における電話相談窓口の中心として、深い悩みを抱えておられる方々に温かい手を差し伸べてこられましたことに、心から敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

さて、先般、厚生労働省より発表されました人口動態統計調査によりますと、県内の平成25年の自殺者数の概数は279人と、平成23年以降300人を下回っております。自殺者数が近年減少傾向にありますことは、山形いのちの電話の運営に携わっている理事長はじめ役員、相談員、関係者の皆様の御尽力の賜物であり、日頃の御労苦に対し改めて感謝を申し上げます。しかしながら、自殺者数が減少傾向にあるとはいえ、依然として自殺が後

を絶たない状況を踏まえ、今後も、総合的な自殺対策を講ずる必要があると考えております。

山形いのちの電話の皆様による電話相談は、本県の自殺対策を推進していく上で、重要な役割を担っております。様々な問題を抱え、生きる力を失いかけている方々の話を、心を傾けて聞き、寄り添う皆様の存在は、県民の方々にとって益々大きくなっていると感じるところです。

県としましても、平成21年度に設置した地域自殺対策緊急強化基金を活用し、関係団体と連携を図りながら、各種相談窓口の設置、地域で支える人材の養成、自死遺族の集いの開催などに取り組んでいるところです。

山形いのちの電話の運営に携わっている皆様におかれましては、今後とも、本県の地域福祉の一翼を担い、自ら命を絶とうとする方が一人でも救われますよう、一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山形いのちの電話の益々の御発展と、関係者の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

山形市長 市川 昭 男

社会福祉法人山形いのちの電話が、開局20周年という輝かしい節目を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

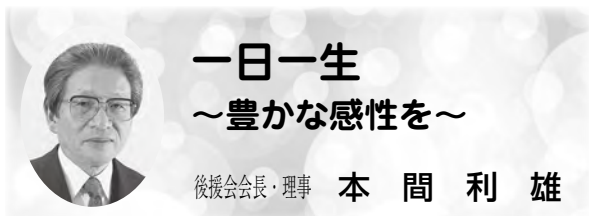
貴法人におかれましては、平成6年に開局され、以来、20年もの長きにわたり、自殺予防をその使命として、昼夜を問わず献身的に電話相談を受けられるとともに、公開講座やコンサートの開催などの啓発事業を通して、本市はもとより本県の自殺防止の推進に大きく寄与してこられました。これもひとえに、古澤理事長をはじめ役員の皆様、そして多くの相談ボランティアの皆様方の熱意とご努力の賜物であり、これまでの積年のご尽力に対し、深甚なる敬意と感謝申し上げます。

かけがえのない命を自ら絶つことは、本人にとってこの上ない悲劇であるだけでなく、その家族や周りの人々に大きな悲しみと生活上の困難をもたらします。

山形市におきましては、自殺により年間約50名もの尊い命が失われており、一人でも多くの大切な命を救うために、自殺防止への理解を深めていただく啓発活動や、悩んでいる方に気づき、声を掛け、気持ちに寄り添い、専門家につなぐ役割を担うゲートキーパーの養成などに取り組んでおります。こうした取り組みを着実に推進し、自殺のない社会を築いていくためには、一人ひとりが身近な問題として受け止め、関係団体や地域、行政が連携しながら、社会全体で支え合う環境づくりが重要であります。

このような意味におきましても、相談者の孤独や不安、悩みの声に耳を傾け、心の支えとなっておられる貴法人の活動は誠に意義深く、今後とも、誰も自殺に追い込まれることなく、心身ともに健康で、心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現に向け、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、社会福祉法人山形いのちの電話が、開局20周年を契機として、ますますご発展されますとともに、活動に携わられる皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



一日一生 ～豊かな感性を～

後援会会長・理事 本間 利 雄

今から20数年前、私の敬愛する友人、梅津さんが訪ねて来られた。同行した山形大学の石塚教授と、現在山形いのちの電話理事の境澤さんが「山形にいのちの電話をつくりたいので、是非理事長を引受けてくれないか」と。私はその時初めて、いのちの電話について知ることになる。

訪ねてくれた御三方は、クリスチャンとしての信仰を持っておられました。私は小国にある、無教会派の基督教独立学園を創立された鈴木弼美先生を知っていたので、その思いは少し理解出来たが、「しばらく考えさせて下さい」と申し上げた。

その時から20数年の年月を経て、今年20周年の記念行事が行われる。初代理事長の田中哲さんから古澤理事長のもと、みなさんのあたたかい御協力・御盡力によって運営されていることに深く感謝を申し上げます。

ボランティアで御協力下さっている相談員の方々、陰になって支えて下さっている方々にここ

ろから感謝申し上げます。

人生はただ一度。人生を真剣に生きること。私も20代の若い頃、辛いことがあって基督教独立学園の校長室を訪ね、鈴木弼美先生にお会いすると何も云えなくなるのです。その校長室に掲げられている内村鑑三先生の書「一日一生」。今日一日を大切にすべきこと。それに尽きるのです。今日は再びやって来ないので、どんなことにも全力を傾けて真実の展開です。

建築図面に展開図を画きます。すべての部屋を展開するのです。隅々まで画きまくるのです。その空間をとらえるのです。この空間に何が出来たのだろうか。人は何を思うのだろうか、想像する楽しさを見つけることです。

どんなに「苦」であっても、それは感性として心の中に積んでいけるのです。苦しい時の感性は苦を乗り越える力になります。

私の故郷にブナの原生林があり、歩くのが好きで今年も4回ほど歩いています。不思議な力を与えられるのです。この自然のエネルギーが私の感性に沁みこんでいきます。よろこびも美しさも苦労も、すべてその人の体験からその人の感性は積み立てられるものです。感性を豊かにすること、それは生きるよろこびを一層豊かにしてくれるのではないかと思います。

いのちの電話のはじまり

一期生・理事 境 澤 栄美子

「山形にいのちの電話を！」と言い出されたのは、当時、山形大学教養部生物学教室教授だった石塚和雄さんです。1989年秋、日本基督教団山形地区信徒研修会の席上でした。それを受けてまず『仙台いのちの電話』の出村和子先生の講演会を企画しました。30名程が集まり、山形でも是非設立したいと準備委員会が発足し活動を開始しました。大先輩の『仙台いのちの電話』や先輩の『盛岡いのちの電話』を訪ね、開局までの道程を学び、山形でも早速学習会を始めました。テキストは“電話による援助活動～いのちの電話の理論と実践”です。

また、この運動を支えてくださる方々をと最初にお願いに上ったのは、県内外に多くの建築物を手がけておられる設計士の本間利雄さん。本間さんは基督教独立学園に縁がある方と伺ってましたが、本当に私たちの話を熱心に聞いてくださり「私は多忙なので」と田中哲前理事長（山形県芸術文化協会会長）を紹介してくださいました。又、仏教関係にこそ御協力を願いたいと、私が奥様と知り合いましたので天童の名刹・妙法寺の住職矢

吹海慶さんをお願いしまして、そこからも支援の輪が広がっていきました。

相談員の養成には出村先生からアドバイスをいただきました。研修を担当してくださる先生方はなるべく地元の方々でとのことで、山形大学病院の精神科や心理学教室の先生方に二人でお願いに上がりました。有難いことに、どこに行っても真剣に耳を傾けてくださり承諾してくださいました。石塚さんの熱心さと人柄のよさもさることながら、山大教授だったことも信頼の絆になったと思います。一番苦勞だったのは相談室・事務室の場所です。なかなかみつからず、さすがに石塚さんも弱音を吐いていました。やっとみつかった今の場所、狂喜してみんなで掃除をし、壁ぬりをしました。

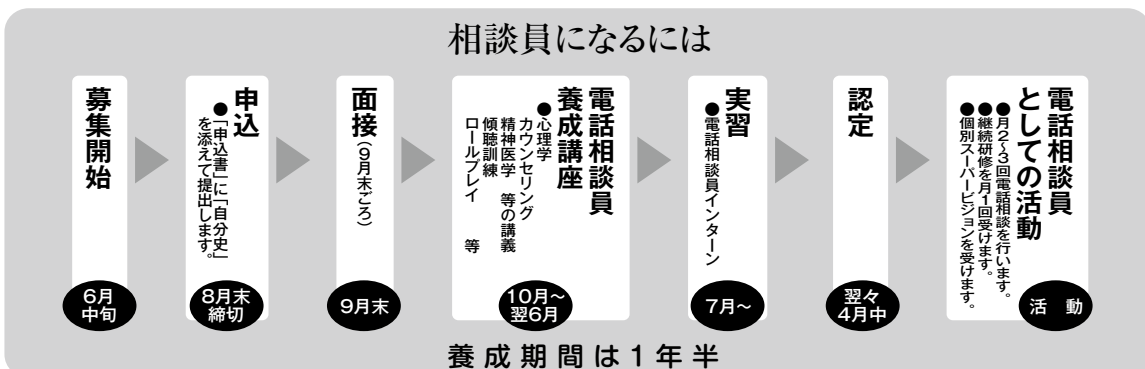
遂に1994年10月、相談員68名で開局しました。石塚さんも一期生の訓練を受けていたのですが、病を得て間もなく入院、翌年7月天に召されてしまわれました。

天国の石塚さん！礎を築いてくださった『山形いのちの電話』も早いもので20年たちました。相談員は頑張っています。一期生仲間も続けています。どうぞ、これからも私たちを見守り続けてください。

いのちの電話とは

私たちのまわりには、さまざまな困難を抱えてひとりで悩み、苦しみ、生きる力を失いかけている人々があります。こうした危機に追い込まれている人々と電話を通して心を通わせ、再び生きる力を取り戻されることを願いつつ活動しています。「今、ここで」危機にある人の心を支え信頼の絆をつくることです。この機会に是非あなたもこの活動に加わっていただき、共に学びつつ受話器を握る一人になってくださいませんか。自己成長のきっかけにもなると思っています。

相談員になるには



お問い合わせ：社会福祉法人 山形いのちの電話事務局

☎:023-645-4377 (執務時間/月～金・午前10時～4時)

URL : <http://www6.ocn.ne.jp/~yind4343/> E-mail : yind4343@cronos.ocn.ne.jp

— 20周年記念事業 —

10月25日(土) 13:30より山形グランドホテルにて、山形いのちの電話設立20周年記念式典・祝賀会を開催いたしました。前半に記念事業として『「山形いのちの電話」について語る会』を実施し、ご参加の皆さんと共に1時間半、有意義な時間を共有することができました。後半の式典では、長年いのちの電話に貢献いただきました方々に感謝状を贈呈しました。普段お会いできない会員・役員・元相談員や専門家の先生方・相談員128名が一堂に会し、祝賀会ではミニコンサートをはさみながら、なごやかなひと時を過ごすことができました。

○●○「山形いのちの電話」について語る会 ○●○

司会者: 理事 伊藤和子さん
話題提供者: 相談員・1期生Y. Oさん 5期生T.Oさん
 12期生M. Oさん
 理事・後援会会長 本間利雄さん
ま と め: 仙台いのちの電話前理事長 出村和子先生

司会者: 初代事務局長の故石塚和雄さんが山形にも「いのちの電話」をとの思いで設立に向け準備を始められたのは1989年のことです。それから5年の年月を経て平成6年、1994年10月1日午後3時に「山形いのちの電話」は開局しました。そして今日ご出席の相談員の皆様、研修の先生方、そして役員の皆様をはじめとして、たくさんの方々のご支援ご協力をいただき、無事20周年を迎えることができました。これを記念して皆様と共にこの20年を振り返り、そしてこれからの活動のあり方を考えていく場として『「山形いのちの電話」について語る会』を企画しました。



◆これまでの20年間を振り返って

司会者: 本間さんは開局以来、理事としてまた後援会会長としてずっと山形いのちの電話を支え続けてくださっている方です。相談員のみなさんが役員の方々にお会いする機会はあまりありませんが、役員の方々は経済界をはじめ、山形を代表する方々ばかりです。これは豊富な人脈をお持ちの本間さんのご尽力の賜物です。このことは山形センターの大きな特色です。それでは、本間さん山形いのちの電話との関わりについてお願いいたします。

本間さん: ある時、敬愛する建設業の梅津さんの訪問を受け、同行者に故石塚先生がおられた。先生はいのちの電話について真剣に語られました。いのちの電話の事について知識はなかったので「理事長を」との打診については「荷が重すぎるため考えさせてください」と答えました。その後、県芸文協会会長でもあり、長くからの付き合いのあるラジオ山形の田中哲さんをお願いし、快く引き受けていただきました。これが初代理事長の誕生です。また、小国のキリスト教独立学園の鈴木弼美先生を訪ねた時、奥様の対応に胸がつまり、先生との会話を通して「間をおく事」の大切さ、解決方法ではなくその「間」が問題を解決するという事、相談員の方にも相通じるのではないかと思います。

司会者: それでは、相談員になろうと思ったいきさつと、電話をとりはじめたころの事をお話してください。

Y. Oさん: 20数年前、私はもっと相手の気持ちをわかってあげたいと思っていた時期でしたので、自分の勉

強のために人間関係基礎訓練を申し込みました。当時は新庄から2時間あまりの道のりでした。大変な電話で心が重くなる時は、事務局員の西條さんに聞いていただき重荷をおろしてから帰路につきました。次第に学習会の仲間たち、担当で一緒になった方達との出会いを通して、お互いに支えあう絆が深まってまいりました。

T. Oさん: 身内に不幸が続き、やるせない気持ちで一杯でした。自殺者を減らしたいと思っていたことと、ボランティアに対する憧れ、ボランティアをやってる人ってどんな人？興味津々でした。そして自分の人生において何かを残したいという思いからです。電話をとりはじめた頃は、緊張の連続で余裕がありませんでした。つらいと思ったことは、かけ手から怒られたことです。ショックでした。電話の内容は想定外なことが多く葛藤がありました。

M. Oさん: 退職をきっかけに社会貢献の目的で応募しました。人間関係基礎訓練での傾聴・沈黙は、私にとって厳しい研修でした。というのも、ずっと職場では課題や質問には的確な答えをださなければとの思いで生きてきたものですから。

司会者: それぞれの思いで相談員となり、つまづき悩みながら電話を受けていたんですね。次に、相談員として経験を積まれた今、どんなことをお感じですか。

T. Oさん: 苦手な電話が克服できていません。それは同じことを何回も繰り返す人。同じことでかけてくる人。でも、この活動が11年続いたということは良かったと思います。合わないとすれば2・3年で辞めていたでしょうから。心身の病を抱えている方、孤独や不安を感じている方、その方達のために必要とされていると思います。

M. Oさん: 今は自分のためになっていると感じています。かけ手の方の話を聴く、継続グループでの心地よい気持ち。この場では自分の悩みを素直に打ち明けられます。研修を受けるなど、資質を高める時間を作って自分を見つめ直し、それによって見えてくる世界や自分の立つ位置が少しずつ違ってきていると思います。多くの友達はいますが、相談員の仲間は特別、とつてもありがたい出会いです。

Y. Oさん: 10年位たったころ自殺未遂を繰り返している方から話を聞き、こういう人の為にここにいるんだと気づきました。私の住むところでも自殺率が高い。数年後、身近な人が立て続けに自殺したこともあり、改めて自殺は身近なことなんだと思いました。20年の間いろいろなことがありました。自分の体調・子供・両親の介護とよく続けてこられたと思います。これも家族の支え・沢山の人の支えがあったお蔭と感謝しています。生きる

いうことはすごいこと、どなたの人生もかけがえのない一人ひとりのオリジナルな人生、尊い人生、大切にお互い生きていこうと思います。

司会者：戸惑いを持ちながらも続けてこられて、今はとても充実感を感じていることが伝わりました。

◆これからの山形いのちの電話について

T. Oさん：20年を振り返って、これからの10年を考えたとき、活気ある活動をめざし資質を高めていくことを努めていきたいです。

Y. Oさん：「よき隣人として話を聴く」ことは変わってはならない。私個人としては、自分の心を鍛錬して話を聴きたい。相談員になってよかった、続けていこう、と思ってもらえるようサポートしていこうと思います。居住地区の風土を変えていきたいと思うので、また講演会の開催など努力したいと思います。この活動を地域に還元していきたいです。

M. Oさん：現在、力不足ですが相談委員会の会長をさせていただいています。最初は、空き時間を一人一人が努力することで減らせるのかなと考えていました。しかし、今、一人一人は精一杯頑張ろうとしていると思います。長く続けるには無理をしないで、つながらない電話の課題には組織として取り組むことが大事だと思います。自分で希望したボランティアなのだから相談員としてどう考えるか、他のセンターとも交流しながらいい方法を見つけていければと思います。最近、相談員のホットラインのことが相談員のなかから出てきているので取り組んでいきたいです。相談員同士の「ご苦労様」「よくがんばっているね」といった言葉がけや気遣いで、心の安定を保つことができるのです。皆さんのお力をいただきながら、魅力ある山形センターをつくっていききたいと思います。

司会者：最後に本間さんからお願いします。

本間さん：私がこの話を引き受けた時、自殺者の数は、秋田、岩手、山形の順に多かった。去年は6番目です。美しい景観がありながら、どうして命を絶とうとする方々がいるのだろうか。経済だけの問題だけだろうか。現代を「生きる力」が弱まっているのだろうか。私が生まれたのは、1931年。厳しい環境で必死に生きようとしていました。今の人はそんなに弱くなったのだろうか。当時から見ればこんなに豊かになっている。何か大きなものが満たされていないのかなと思います。

司会者：ありがとうございます。フロアの皆様から、質問、ご意見をお願いいたします。

Yさん：今の社会は本当に豊かなのでしょうか。A市で最近おきたことで、6世帯のアパートで2階に住む女性の方がいました。一緒に住んでいた男性がその女性を見捨てて部屋を出て行ってしまいました。5年目で、白骨化した死体が発見され、私のところに警察から連絡があり、ボランティアでお葬式をしました。誰も気が付かなかった。人間関係が希薄になっているのか。一見華やかに見える。が、相互扶助の希薄、あたたかさ、近所、友達同士の関係が希薄になっている。それが原因なのだろうか。平成の駆け込み寺をしています。去年、おとしにかけて、お葬式を出せない、食べることができない人に、寺でしてあげました。そこまで人間同士の助け合いがなくなっているのでしょうか。大自然の中で恩恵を受

けられない人々が増えています。これは大きな問題だと思います。

司会者：地域の人間関係づくりにも目を是非向けていきたいと思います。それでは、最後に出村先生にまともをお願いいたします。山形センター準備段階の、最初の勉強会の講師が出村和子先生でした。それ以来、先生には相談員の研修、いのちの電話の運営面など大変お世話になっております。では、先生お願いします。

出村先生：この大事な記念すべき20周年に、生きてお会いできたことに感謝申し上げます。生かしてくださった神様に感謝します。再会できる幸せに感謝します。ここに古い手帳を持ってきました。山形に、いつ来たのか書いてあります。私が初めて皆様にお会いしたのは、平成4年、1992年12月12日（土）です。午前10時から皆さんとどのように始めるかという、開局の準備のための読書会、カウンセリング、ボランティア、などのお話をしました。旧事務局長の境澤さんにお会いできてうれしいです。山形は、当初は仙台の分身で、兄弟姉妹でありましたが、現在は独立されています。20年経ったことは大変うれしいことです。悩みながらボランティア活動を続けてこられたと思います。悩むことは良いことです。悩むことで相手の悩みに寄り添う、傾聴することができる。自分が悩むことで、相手の悩みにあずかることができます。

私は信念でこの活動をしていくのだと思います。それには家族の理解や社会のサポートが必要です。経済界の理解、その支援で活動は盛り上がります。これからもそれぞれの方々の支えで、つながりながら、互いのいたわり合いが大事です。いのちの電話は匿名性ではありますが、かけ手との関係、横とのつながりをつくっていくことを大事にしていきたいと思います。♪この～木なんの木 気になる木～♪ 一本の幹は、いのちの電話の根幹です。繋がっている枝、葉は相談員や支えている方々です。すべての人々が木を支えていく。そのことを大切にしていきたいと思います。話せる友がいることも大事です。20周年でいい企画をなさいましたね。いろんな声をお聴きして、20周年を迎えられて向こうに光が見える。大きな木を皆さんで支える姿勢が必要です。



司会者：連盟の事務局長岡本さんからもお話をお願いします。

岡本さん：今日お話をうかがったことは、今後の連盟に反映させていきたいと思っています。私たちは協力して何が出来るか。今後の研修の参考にしていきたいと思っています。良い会に参加させていただいてありがとうございました。

司会者：どうもありがとうございました。「この活動はたくさんの人に支えられ、20周年を迎えることができたのだ」と改めて実感いたしました。これから30周年に向け、あゆみをとめることなく支えていきましょう。それでは『山形いのちの電話』について語る会』を終わらせていただきます。これから引き続きのご支援・ご協力をどうぞ、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

役員名簿

顧問	理事	常務理事・事務局長	評議員
相馬 健一	本間 利雄	伊藤 和子	遠藤栄次郎
理事長	末廣 晃二	後藤 裕	熊谷 眞一
古澤 茂堂	助川 暢	長谷川憲治	三浦孝太郎
	矢吹 海慶	栗原 啓市	植松 弘祥
	境澤栄美子	国井 富彦	鈴木 功修
		大沼 俊彦	長谷川憲治
			梅澤 早苗
			沼野 慈
			小野 葉子
			石井 佑二
			後藤 茂
			本間 研二
			金田由利子
			波多野保夫
			菅原 和夫
			古川 直子
			石川貴代子

法人会員名簿

(医)社団 倂仁会板垣医院	(株)建装テクノ	山形警備保障(株)	山形市キリスト教連合
(医)徳洲会山形徳洲会病院	(株)黒沼共同会計事務所	山形県石油商業組合	千歳グループ親交会
(学)基督教独立学園	(株)三浦板金製作所	山形三菱電機機器販売(株)	(株)ナイガイ
(学)山形デザイン専門学校	(株)山形ランドホテル	山形酸素(株)	(医)池田内科医院
(学)富澤学園	(株)山形テレビ	山形事務器販売(株)	(学)南陽学園宮内幼稚園
(学)平和学園ひかり幼稚園	(株)山形ビルサービス	山形信用金庫	(社)山形県労働者福祉協議会
(学)平和学園新庄幼稚園	(株)山形銀行	山形放送(株)	(社)山形市社会福祉協議会
(有)キャロットランド	(株)山形新聞社	山新建築(株)	(有)カワダ薬局
(有)山六製材	(株)山形組	鹿間(株)	(有)丸悟建設
(有)新庄石油	(株)新庄ビル	柴田原料(株)	いのちの電話後援会
(有)壽屋	(株)新庄印刷	(社)山形県歯科医師会	(株)ジョイ
N T T 東日本(株)山形支店	(株)菅原工務所	小笠原商事(株)	(株)ぶどうの木
きらやかリース(株)	(株)西村工場	千歳不動産(株)	(株)わだ電気設備事務所
トーエイ工業(株)	(株)千歳建設	善龍寺	慶松寺
ネットトヨタ山形(株)	(株)天野左官	東栄コンクリート工業(株)	古澤・内藤法律事務所
フジマシ工業(株)	(株)本間利雄設計事務所	東北電化工業(株)	光禅寺
遠藤商事(株)	(株)高橋工務店	内外緑化(株)	山形キリスト教会
遠藤設備建設(株)	吉野断熱工業(株)	日本基督教団山形地区	山形経済同友会
角田商事(株)	協同薬品工業(株)	日本基督教団山形本町教会	山形南部教会婦人会
(株)エル・サン	弘栄設備工業(株)	日本基督教団山形六日町教会	山形友の会
(株)きらやか銀行	高橋畜産食肉(株)	博済会高橋胃腸科外科医院	蔵王めぐみ幼稚園
(株)シベール	国際ソロプチミスト米沢	本行寺	中山ロータリークラブ
(株)ベガスベガス	黒澤建設工業(株)	國井建設(株)	日本基督教団酒田教会婦人会
(株)マルナカ中村商店	三宝寺	高島電機(株)	白蝶ビル(株)
(株)メコム	山形いすゞ自動車(株)	(株)パレス平安	峯田典明法律事務所
(株)ヤマコン	山形パナソニック(株)	山形コミュニティ放送(株)	和田酒造合資会社
(株)ヤマザワ	山形ロータリークラブ	N T T 山形グループ	
(株)ユアテック山形支社	山形共立(株)	トヨタカローラ山形(株)	
(株)卯月製麺	山形空港ビル(株)	(株)蔵王サプライズ	

募金箱会員名簿

日本海総合病院	ギフトオースマ	(医)山形愛心会庄内余目病院	(株)もがみ物産協会
(株)ジョイ	玄柳館ホテル	東北中央病院	山形国際ホテル
(株)シベール	郷野目ストア	鶴岡市立荘内病院	(財)三友堂病院
山形いのちの電話事務局	森金物店	日本基督教団山形本町教会	舟形町社会福祉協議会
(有)くまがい	山形県立中央病院	篠田総合病院	介護老人保健施設かがやきの丘
(医)社団 倂仁会板垣医院	国立山形病院	米沢市立病院	
清川屋マリカ本店	山形県立鶴岡病院	(有)カワダ薬局	

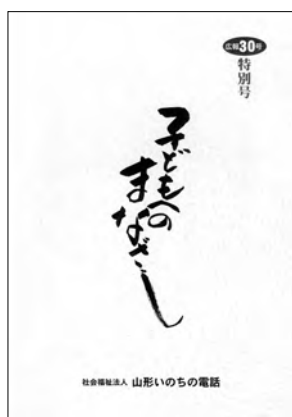
山形いのちの電話は、お陰様で20周年を迎えることができました。皆さまの温かいご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。
皆さまからの寄付金は、活動費として使わせていただいております。
今後とも、ご支援の程よろしくお願いいたします。

20年

年度	山形いのちの電話	世の中の動き
1994年 (平成6年)	10. 1 シンボルマーク誕生 開局、開局記念集会 講演 斎藤友紀雄氏 (いのちの電話常務理事) 『コミュニティ・ケアとしてのいのちの電話』	記録的猛暑、水不足が深刻化 大江健三郎氏にノーベル文学賞
1995年 (平成7年)	5.30 「山形いのちの電話」第1回総会 9.30 第1期電話相談員認定式 (68名)	阪神大震災、死者5,502人 景気低迷で空前の就職難
1996年 (平成8年)	6.12 相談員会設立総会「山形いのちの電話」第2回総会 10.11 「社会福祉法人山形いのちの電話」(以後省略) 設立総会	北海道のトンネルで落盤事故、20人死亡 薬害エイズ事件で安部前帝京大副学長逮捕
1997年 (平成9年)	2.24 社会福祉法人認可 10. 1 第2期電話相談員認定式 10.17~18 「眠らぬダイヤル」(連続33時間電話相談) 11. 内部誌「ひまわり」第1号発行 12.10 「愛の鳩賞」受賞	土井隆雄さん宇宙遊泳成功 消費税5%スタート
1998年 (平成10年)	4.29 キラキラ会『魅惑のSOLOとアンサンブルコンサート』共催 9.27 ボランティアフェスティバル参加『ライフサイクルの中の電話相談』 10. 1~2 「眠らぬダイヤル」(連続33時間電話相談)	カレーにヒ素混入、4人死亡 W杯サッカーフランス大会開催、日本初出場
1999年 (平成11年)	3.12 小中高向けリーフレット配付 10. 1 第3期電話相談員認定式 10. 子どもへのパンフレット配布	東海村で国内初の臨界事故、1人死亡 脳死移植、初の実施
2000年 (平成12年)	6.21 『ミネハハコンサート』後援 9. 1 ボランティアリーダー研修開始	三宅島噴火で全島民避難 沖縄でサミット開催
2001年 (平成13年)	6.19 『ミネハハコンサート』後援 12. 1~7 フリーダイヤル電話相談 (24時間)	米国で同時多発テロ、世界貿易センターに飛行機突入 失業率、過去最悪に
2002年 (平成14年)	1.27 フリーダイヤル感謝の集い 10. 1 第4期電話相談員認定式 10.25 東日本広報担当者会議を山形で開催	ノーベル賞小柴氏、田中氏ダブル受賞 巨人が日本一、松井秀喜選手大リーグへ
2003年 (平成15年)	1.11 フリーダイヤル感謝の集い 10. 1 第5期電話相談員認定式 3. 9 福島いのちの電話との交流会	衆院選で与党が絶対安定多数を獲得、2大政党化進む 小泉首相がイラク攻撃を支持
2004年 (平成16年)	9.11 10周年記念講演会 講演 佐々木正美先生 (川崎医療福祉大学教授) 『子どもへのまなざしPart2』~思春期のころころ~ 10. 2 10周年記念集会	新潟中越地震で死者40人 アジアで鳥インフルエンザ猛威
2005年 (平成17年)	6. 4 最上地区ミーティング 6.11 公開講座 高橋誠一郎先生 7. 2 公開講座 佐々木久長先生 7.16 公開講座 佐藤秀実先生 7.30 公開講座 林淑子先生 8. 6 公開講座 渡會睦子先生 10. 1 第6期電話相談員認定式	衆院選で自民党が歴史的な大勝 尼崎のJR西日本脱線事故 マンションなど耐震強度偽装 郵政民営化法が成立 アスベスト被害、深刻に パキスタン北東部で大地震
2006年 (平成18年)	「命のノート」を映画化した作品「待合室」を鑑賞 1.28 フリーダイヤル感謝の集い 10. 1 第7期電話相談員認定式 10.14 公開講座 清水康之先生 12. 1~7 フリーダイヤル	安倍政権が発足、憲法改正や教育改革に意欲 ホリエモン、村上代表らヒルズ族の逮捕 秋篠宮家に男子誕生、皇室として41年ぶり いじめ自殺、未履修などで教育現場混乱 北朝鮮が地下核実権、国連が制裁
2007年 (平成19年)	6.29 田中理事長感謝の集い 9.10より毎月10日フリーダイヤル開始 10. 1 第8期電話相談員認定式	参院選で自民党が歴史的惨敗 「消えた年金」で社保庁に怒り沸騰 止まらぬ食品偽装「食」の安全・信頼大きく揺らぐ 原油が1バレル=100ドルに迫る バイオ燃料で穀物価格も高騰
2008年 (平成20年)	7.19 公開講座 眞壁伍郎先生 10. 1 第9期電話相談員認定式 10. 4 最上地区講演会 東谷慶昭先生 10.18 第11期電話相談員養成講座開講式	秋葉原、大阪個室ビデオ店などで「誰でもよかった」的犯罪 冷凍ギョーザ、汚染米転売など食への不安さらに高まる 日本人学者にノーベル物理学賞と化学賞 非正規雇用が過去最高に、「蟹工船」ブーム

の 軌 跡

年度	山形いのちの電話	世の中の動き
2009年 (平成21年)	5.23 知事と相談員研修 7. 4 公開講座 本橋豊先生 7.26 市民活動支援補助金公開プレゼン 10. 1 第10期電話相談員認定式 10.17 第12期電話相談員養成講座開講式 12. 1 庄内分室開所式	衆院選で民主党優勝、政権交代で鳩山政権誕生 裁判員裁判がスタート 新型インフルエンザが大流行、死者も増加 円高、デフレ宣言、日航経営危機など企業業績悪化 オバマ米新政権スタート、「核なき世界」でノーベル平和賞
2010年 (平成22年)	6. 1 新ポスター・リーフレット作成 7. 3 公開講座 北畑英樹先生 7.28 海の日記念チャリティーコンサート 松倉とし子さん 第8回チャリティーコンサート出演者が変わる 9.25 第11期電話相談員認定式	尖閣諸島で中国漁船が巡視船に衝突、ビデオ流出騒ぎも 参院選挙で民主党が大敗、ねじれ国会に 観測史上最高の猛暑、熱中症多発で死者も 小惑星イトカワから「はやぶさ」が帰還 所在不明の高齢者が続々と判明、「無縁社会」も深刻に
2011年 (平成23年)	3.11 東日本大震災 4.23 第12期電話相談員認定式 7. 2 公開講座 大西秀樹先生 7.16 海の日記念チャリティーコンサート 中村メイコさんご一家 9.11 震災フリーダイヤル開始	東日本大震災と東電福島第1原発事故 サッカー女子W杯、なでしこジャパン世界一 円が戦後最高値を更新、円売り介入、輸出産業苦境に 北朝鮮の金正日総書記が急死、世界に波紋 欧州の財政危機拡大、政権交代相次ぐ
2012年 (平成24年)	4.11 庄内分室 移転開通式 4.21 第13期電話相談員認定式 6.30 公開講座 高木慶子先生 7.24 海の日記念チャリティーコンサート 渡辺真知子さん 10.27 公開講座in庄内 出村和子先生	野田首相、内閣に東日本大震災総括担当大臣を新設、平野達男復興担当大臣を兼務で任命 ノーベル生理学・医学賞を京都大学山中伸弥教授が受賞、日本人のノーベル賞受賞者は19人目 レスリング選手吉田沙保里に対する国民栄誉賞授与決定
2013年 (平成25年)	2.22 ワーキンググループ開始 4. 6 第14期電話相談員認定式 第2回 ボランティアリーダー認定式 6.29 役員・相談員の交流会（基督教独立学園見学） 7. 7 公開講座 香山リカ先生 9.30 2年間の震災ダイヤル終了 10.27 庄内地区・公開講座 神田秀人先生	楽天の田中将大が日本プロ野球の新記録の21連続勝利投手 原子力規制委員会、東京電力福島第一原子力発電所のタンクから放射性物質を含む汚染水が漏れた問題で、トラブルの深刻さを示す国際原子力事象評価尺度（INES）を「レベル3」（重大な異常事象）に引き上げると発表
2014年 (平成26年)	4.14 20周年記念記念事業会議 19 第15期電話相談員認定式 5.31 第1回20周年記念事業・実行委員会 7. 7 公開講座 みらいなな先生 9.27 第2回 20周年記念記念事業・実行委員会 10. 4 第17期電話相談員・開校式 第2回 ボランティアリーダー認定式 第3回 ボランティアリーダー開講式 10.25 20周年記念記念式典・祝賀会	消費税が5%から8%に増税され、同時に、うち1%（消費税額の25/100）であった地方消費税の率が1.7%（消費税額の17/63）に引き上げとなる 日本マクドナルドとファミリーマート、中国・上海の食品加工会社「上海福喜食品」が保存期限を過ぎた鶏肉を使用した可能性があるとして、この食品加工会社が製造したチキンナゲットの販売を中止



★INFORMATION★



第12回山形いのちの電話チャリティーコンサート

いのちをうたうコンサート

出演 高橋まり子 (ソプラノ) 高橋 寛 (テノール)
増川 大輔 (チェロ) 須藤恵美子 (ピアノ・編曲)

日時 12月29日(月) 18:30開演 (開場18:00)

場所 山形グランドホテル 2F「サンリバー」

チケット お一人さま 10,000円 (軽食、お飲み物付、税込)
※お問合せは090-3120-9572 (三浦) まで

主催 山形いのちの電話 理事長 古澤 茂堂
後援会会長 本間 利雄
評議員 三浦孝太郎

※チケット代金の一部を、「山形いのちの電話」の活動資金とさせていただきます。

資金ボランティアのお願い

山形いのちの電話の運営費は、主として皆様の善意による寄付金で支えられています。あなたも後援会員になって、この活動を支えてくださいますか？

①維持会員 (年額：何口でも可)

	A会員	B会員	C会員
個人会員	1万円	5千円	3千円
団体会員	10万円	5万円	1万円

②賛助会員

金額は特に定めず、随時ご寄付いただける方です。クリスマス、歳末など、折にふれてご協力ください。寄付金は免税となります。詳しくは事務局 (023-645-4377) にお問い合わせください。

年末特別賛助金のお願い

クリスマス・年末を迎え、今年もご協力の程、よろしくお願い致します。

◎ご寄付につきましては、税法上の優遇措置の対象となります。法人は損金算入、個人は寄付金控除が受けられます。

・送金先 郵便振替口座 02460-2-21250 ・名義先 社会福祉法人 山形いのちの電話

毎月10日は自殺予防いのちの電話！

自殺予防いのちの電話 (フリーダイヤル)

時期 2014年12月～2015年3月

時間 午前8時～翌日午前8時まで

TEL 0120-738-556

寄附金控除のご案内 当法人へのご寄附は「寄付金控除」の対象となります。

◎個人によるご寄附の場合

山形いのちの電話はこれまでの所得控除制度に加え、2011年より新たな税額控除制度の対象法人として認定されました。新たな税額控除制度は、所得金額によらず「寄附金額から2千円を控除した一定割合 (40%)」の節税効果があります。尚、今まで通りの所得控除方法も選択できます。

◎法人によるご寄附の場合

当法人へのご寄附金は、損金算入限度額の範囲内で損金算入をすることができます。

◎相続財産のご寄附の場合

相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に当法人に対してご寄附された場合には控除の対象となります。

※詳しくはお近くの税務署までお問い合わせ下さい。

あ
と
が
き

「山形いのちの電話20周年記念号」の制作にあたり、本間利雄実行委員長より指名を受け、事務局の石川さんや金田さんと編集委員の皆様方のお力添えを頂戴しながら作業を進めました。「言うに10倍、書くに100倍」と言われていますが記録に残る仕事なので間違いのないよう慎重の中にも楽しくやらせていただきました。

相談員の方々の意見等を拝見して、このボランティア活動の重さをあらためて認識させてもらい貴重な体験となりました。

皆様方の御協力に、心より感謝申し上げます。

広報誌編集委員長 三浦孝太郎



社会福祉法人 山形いのちの電話

事務局 〒990-8691 山形中央郵便局私書箱第99号
電話/023-645-4377(事務用) FAX/023-645-7795
発行人/古澤 茂堂 編集/広報委員会

※この広報誌は、共同募金からの助成で作りました。